

2012年度 日本草地学会北海道大会 日程

日時	口頭発表会場 (C1号館・C4号館)					ポスター発表会場 中央館 学生ロビー	
	A会場 C1-101教室	B会場 C1-201教室	C会場 C1-301教室	D会場 C4-201教室	E会場 C4-101教室		
8月27日 (月)	8:30	受付 (C1号館 ホール)					ポスター展示
	9:30	日本草地学会 評議員会					
	12:00						
	12:10			和文・英文誌合同 編集委員会			
	13:00			英文誌AE会議	国際情報担当 委員会		
	14:00	企画集会1	小集会1				
	14:45						
	15:00	総会・学会賞授与式・受賞講演 (中央館 学生ホール)					
	17:50						
	19:00	懇親会 (サッポロビール園)					
20:30							

8月28日 (火)	8:00	受付 (C1号館 ホール)					ポスター展示
	9:00	口頭発表 601-605	口頭発表 201-210	口頭発表 301-310	口頭発表 401-410	優秀若手 発表賞発表	
	10:15	シニア会員 発表					
	12:00	2011年度 受賞講演					
	12:10			企画委員会	草地学用語 委員会	優秀若手発表賞 審査委員会	
	13:00	草地学教育 委員会					
	14:00	企画シンポジウム1 (中央館 学生ホール)					
	16:20						
	16:30	企画 シンポジウム2	企画 シンポジウム3	小集会2			
	18:30						

8月29日 (水)	8:00	受付 (C1号館 ホール)					ポスター展示
	9:00	口頭発表 101-108	口頭発表 211-215	口頭発表 311-316	口頭発表 411-418	口頭発表 606-613	
	11:00		口頭発表 701-703	口頭発表 501-502			
	11:30	企画集会2					
	13:00						
	16:00	公開シンポジウム (中央館 学生ホール)					

【 酪農学園大学へのアクセス 】

1. 新千歳空港から

空港地下の JR 新千歳空港駅から「快速エアポート」で新札幌駅(約 30 分)下車の場合は「2」に続く。札幌駅(約 40 分)下車の場合は「3」に続く。

2. 新札幌駅から

新札幌バスターミナル北レーンから「JRバス 10 番のりば」、「夕鉄バス 12 番のりば」で
野幌・江別・岩見沢・南幌・あけぼの団地方面行きに乗車し、とわの森三愛高校前
または
酪農学園前(約 20 分)下車、徒歩約 5 分。学園構内経由便も運行。

3. 札幌駅から

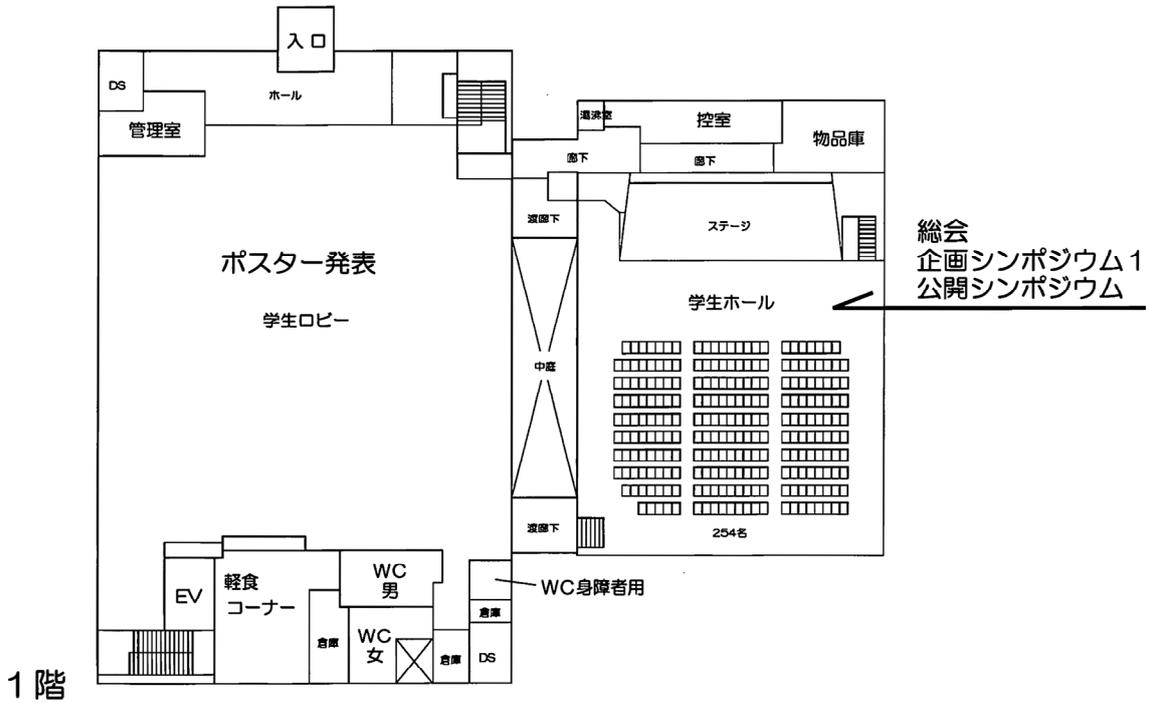
函館本線江別・岩見沢方面行き「快速いしかりライナー」で大麻駅(約 10 分、普通:
約 25 分)下車、大麻駅南口から徒歩約 10 分。

4. 札幌市営地下鉄では

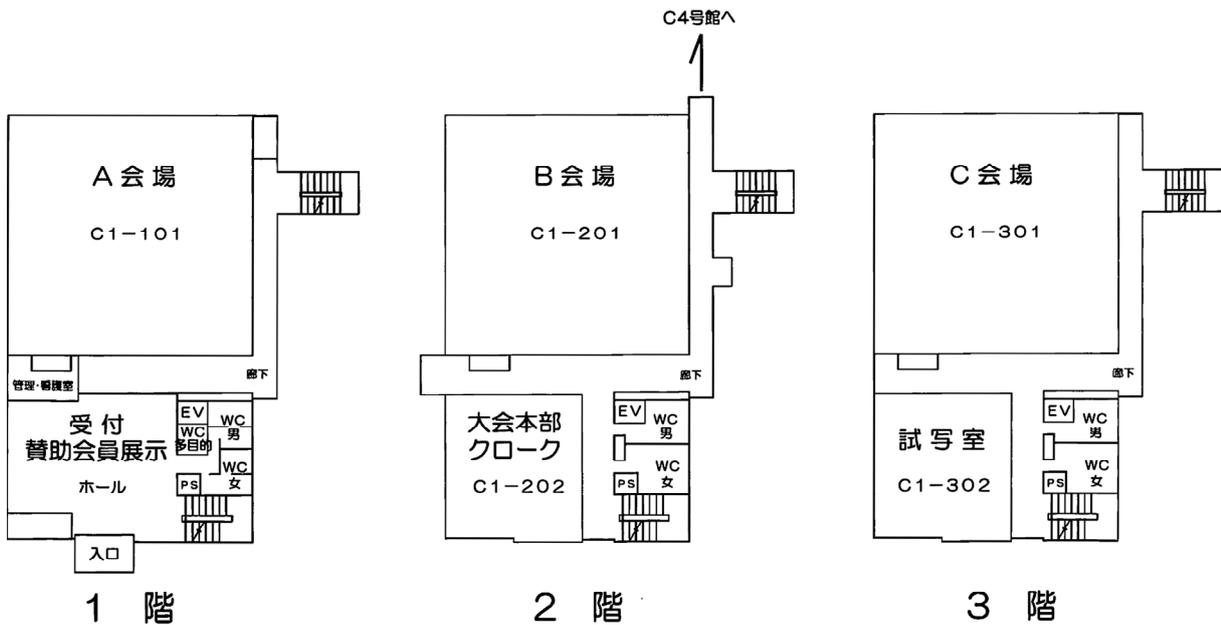
大通り駅で地下鉄東西線に乗り換え、新さっぽろ駅(約 20 分)下車し、「2」に続く。

【 会場案内図 】

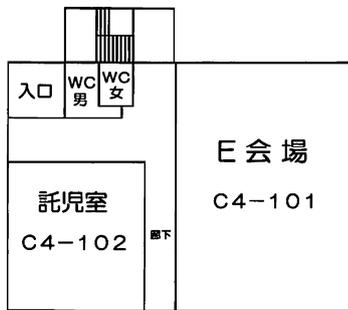
酪農学園大学中央館・学生ホール



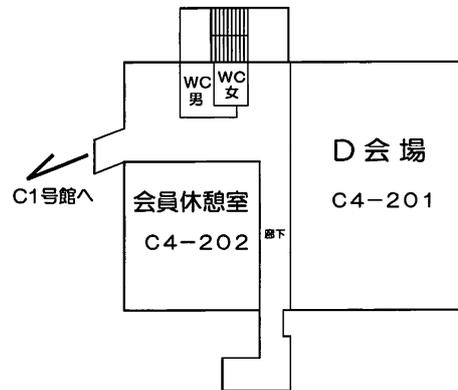
C 1 号館



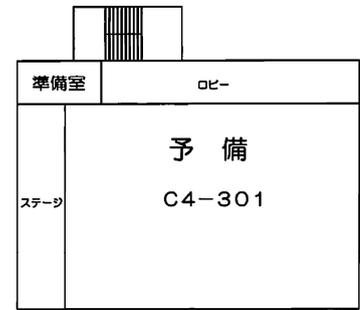
C 4 号 館



1 階



2 階



3 階

公開シンポジウム

「緑地・草地・草原—私たちの生活とつながる緑—」

日時：8月29日（水）、13:00-16:00

場所：中央館 学生ホール

1. 都市の中の緑地

近藤哲也（北海道大学）

2. 乳肉生産および観光景観の場としての草地

大黒 宏（ノースプレインファーム）

3. 生活を支えるモンゴルの大草原

星野仏方（酪農学園大学）

4. 緑とくらし

内倉真裕美（ガーデン・デザイナー）

企画シンポジウム 1

「草地飼料作における放射能汚染の現状と今後の課題」

日時：8月28日（火）、14:00-16:20

場所：中央館 学生ホール

企画者：梶村恭子、山本嘉人（畜産草地研究所）

1. わが国の草地飼料作における放射能汚染について

梶村恭子（畜産草地研究所）

2. 飼料畑における放射性セシウム低減技術

原田久富美（畜産草地研究所）

3. 放牧地における放射性物質の空間分布とその経年変化

築城幹典（岩手大学）

4. 草地における放射性セシウム低減技術

山本嘉人（畜産草地研究所）、渋谷 岳（畜産草地研究所）

5. 放射性降下物汚染地での資源作物栽培及びエネルギー利用の可能性

小林 真（畜産草地研究所）、武野計二（三菱重工業）

企画シンポジウム 2

「ゲノム情報を活用した生物の多様性評価と形質発現」

日時：8月28日（火）、16:30-18:30

場所：A会場（C1号館 C1-101教室）

企画者：明石 良（宮崎大学）、田村健一（北海道農業研究センター）

1. 進化ゲノム学と多様性

小柳香奈子（北海道大学）

2. 植物根圏微生物の機能解析手法開発

信濃卓郎（北海道農業研究センター）

3. イネゲノムの反復配列に基づく低温鈍感力の解析

貴島祐治（北海道大学）

4. イネ科作物のDNAマーカー開発と次世代育種への応用

米丸淳一（農業生物資源研究所）

企画シンポジウム 3

「草地生態系のオーバーユースとアンダーユース」

日時：8月28日（火）、16:30-18:30

場所：B会場（C1号館 C1-201教室）

企画者：西脇亜也（宮崎大学）、堤 道生（近畿中国四国農業研究センター）

1. モンゴル草原における過放牧の生態系への影響と草原再生手法の提案

吉原 佑（東北大学）、伊藤健彦（鳥取大学）

2. モンゴル国の過放牧地域における小型哺乳類の生態系エンジニアリングの働き

川島健二、星野仏方（酪農学園大学）、澤向麻里絵（株式会社ビジョンテック）、
S. Ganzorig、浅川満彦（酪農学園大学）、N. Batsaikhan（モンゴル国立大学）、
C. Augugliaro（レスター大学）

3. 耕作放棄地の持続的な放牧利用

堤 道生（近畿中国四国農業研究センター）

4. GPSと加速度センサー装着牛による草地評価—利用率の低い傾斜草地上部への施肥による牛の誘導—

渡辺也恭（北海道農業研究センター）

企画集会 1

「公共牧場の活性化に向けて①北海道地域の公共牧場の 現状と課題」

日時：8月27日（月）、13:00－14:45

場所：A会場（C1号館 C1-101教室）

企画者：山本嘉人（畜産草地研究所）

1. 北海道における公共牧場の現状

佐藤尚親（北海道立総合研究機構畜産試験場）

2. 農業経済学的視点からみた公共牧場の課題

樋口聖哉（帯広畜産大学）

3. 技術紹介：排卵同期化と早期妊娠診断を組み合わせた繁殖プログラム

後藤裕司（家畜改良センター奥羽牧場）

4. 討論

企画集会 2

「論文の執筆と審査のポイント」

日時：8月29日（水）、11:30－13:00

場所：A会場（C1号館 C1-101教室）

企画者：川村健介（広島大学）、平野 清（若手の会、畜産草地研究所）

1. 論文を書き始める方へー若手研究者の一例ー

足利和紀（北海道立総合研究機構北見農業試験場）

2. Grassland Science 投稿時の要注意点

小林 真（畜産草地研究所：英文誌編集幹事）

3. 論文のまとめ方および投稿と審査結果への対応方法

山田敏彦（北海道大学：英文誌編集委員・審査委員）

4. 外国雑誌に論文がアクセプトされるために

杉山修一（弘前大学）

小集会 1

「シカによる草地被害の実態と捕獲ジカの活用策」

日時：8月27日（月）、13:00－14:45

場所：B会場（C1号館 C1-201教室）

企画者：増子孝義（東京農業大学）

1. シカによる草地利用と被害の実態

塚田英晴（畜産草地研究所）

2. 生体捕獲エゾシカの一時飼育試験

相馬幸作（東京農業大学）

3. ニュージーランドにおけるアカシカの肉と角の活用

石川信雄（フロンティアズグループ）

4. まとめ：北海道におけるエゾシカ生産物の活用策の提案

増子孝義（東京農業大学）

小集会 2

「北海道草地畜産草創期における草地研究」

日時：8月28日（火）、16:30－18:30

場所：C会場（C1号館 C1-301教室）

企画者：雑賀 優

1. 北海道の草地開発とその後

竹田芳彦（前北海道立総合研究機構中央農業試験場長）

2. 北海道における大規模草地開発を顧みて

鈴木慎二郎（元草地試験場長）

3. 北海道における牧草・飼料作物育種分野の取り組み

川端習太郎（元九州農業試験場次長）

4. 北海道の草地開発に民間が果たした役割

山下太郎（前雪印種苗株式会社北海道研究農場長）

口頭発表プログラム 8月28日

A会場 (C1号館 C1-101教室)			B会場 (C1号館 C1-201教室)		
時間	座長	6. 育種	時間	座長	2. 造成・管理・栽培
9:00	上山 泰史	601 トウモロコシ品種JC072Aのアントシアニン着色形質のQTL解析. ○米丸淳一(生資研)、三木一嘉、清沢敦志、後藤和美(長野県畜試)	9:00	下田 勝久	201 関東地域におけるイタリアンライグラスを追播したバヒアグラス放牧草地の生産量と季節生産性. ○北川美弥(畜草研)、千田雅之(中央農研)、平野清、山本嘉人、中野美和、塚田英晴、山田大吾、木戸恭子、中神弘詞、井出保行(畜草研)
9:15		602 トウモロコシの寒地向きフリント種自殖系統「Ho90」がもつす紋病抵抗性の主働遺伝子. ○濃沼圭一、伊東栄作(北農研)	9:15		202 北海道東部におけるアカクローバの播種時期・播種量の検討. ○酒井 治(道総研根創農試)、出口健三郎(道総研畜試)
9:30		603 未熟胚由来カルスから高頻度に再分化するソルガム系統を用いた直接遺伝子導入法の開発. ○中山繁樹(生資研)	9:30		203 庇蔭処理および低温処理がセントオーガスチングラスの生育に及ぼす影響. ○大谷一郎、高橋佳孝、堤 道生(近中四農研)
9:45	米丸 淳一	604 四倍体フェストロリウム品種における形態及び関連形質の変異. ○上山泰史(近中四農研)、米丸淳一(生資研)、久保田明人、秋山征夫(東北農研)	9:45	大谷 一郎	204 イネ科牧草荒廃草地に対する追肥と追播が初年度の植生回復におよぼす影響. ○平野 清、進藤和政、山本嘉人(畜草研)
10:00		605 RNAi法を用いた高消化性遺伝子組換えバヒアグラスの作出とその飼料特性. ○榎藤崇裕、地下千裕(宮崎大)、霍田真一(畜草研)、新美光弘、川村 修、明石 良(宮崎大)	10:00		205 放牧地におけるペレニアルライグラスの効率的表面追播条件の検討. ○平野 清、進藤和政、山本嘉人(畜草研)
10:15	雑賀 優	シニア会員発表	10:15	福田 栄紀	206 ネムノキの肥培樹としての特性評価 樹冠内外に分布する寒地型牧草の生育特性の差違. ○福田栄紀(東北農研)
		S01 フィールドワークで共に学ぶ食の安全・安心-北の3大学連携による社会貢献- ○前田善夫(酪農学園大)、小林国之(北海道大)			207 メドウフォックステイル(Alopecurus pratensis L.)の生態的および栄養的特性. ○佐藤尚親、飯田憲司(道総研畜試)
10:30		S02 北海道への牧草導入経過再考その後 ○中嶋 博(北海道大)	10:30		208 メドウフォックステイル(Alopecurus pratensis L.)種子における発芽能力特性. ○渡部 敢、佐藤尚親(道総研畜試)
10:45	S03 飼料作物研究所設立の経緯と事業概要 ○杉信賢一(元日本草地畜産種子協会)	10:45	209 エンバク、オオムギ、イタリアンライグラスの夏播き栽培時の耐湿性比較. ○加藤直樹、服部育男、桂 真昭、清村 康(九沖農研)		
11:00	前田 善夫	S04 未利用地等におけるヤギの放牧利用と生産物販売の可能性 ○今井明夫(全国山羊ネットワーク)	11:00	杉山 修一	210 イタリアンライグラスをリビングマルチとして導入した不耕起栽培体系における飼料用大豆の生育特性. ○内野 宙、魚住 順、嶺野英子、河本英憲、出口 新(東北農研)
11:15		S05 堤防刈り草の畜産利用推進について ○雑賀 優(岩手大)	11:15		2011年度 日本草地学会研究奨励賞 受賞講演 糞上移植を利用した省力的なシバ草地化技術に関する研究 ○北川美弥
11:30		S06 年間雨量3000mmの九州・四国での極相草原成立-北海道・西欧との比較- ○早川康夫(神奈川県藤沢市)			

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。**時間厳守でお願いします。**
また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 8月28日

C会場 (C1号館 C1-301教室)			D会場 (C4号館 C4-201教室)		
時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用
9:00	中野 美和	301 アカマツ林放牧地における9年間の植生推移. ○加納春平	9:00	高平 寧子	401 福島第1原子力発電所の事故後に収穫した牧草から泌乳牛への放射性セシウムの移行. ○松山裕城、宮地 慎、細田謙次、塩谷 繁(畜草研)、生沼英之、矢内清恭(福島県農総セ)
9:15		302 ケンタッキーブルーグラス基幹放牧草地における省力管理条件下の牧草及び家畜生産性 - 11年間の継続調査. ○八木隆徳、高橋 俊(北農研)	9:15		402 リードカナリーグラスとチモシーの比較給与試験. ○砂留光利(ホクレン畜技実証セ)
9:30		303 GPSと加速度計を用いたヒツジの採食時間推定法. ○進藤和政(畜草研)、山崎正史、下田勝久、鳥山和伸、平野 聡(国際農研)、Baasanjalbuu B.(モンゴル国立農業大)	9:30		403 ダブルローナタネ粕の飼料成分および栄養価. ○青木康浩、大下友子、根本英子、青木真理(北農研)
9:45		304 野草放牧地におけるヤギの草種選好性について. ○大竹秀男、佐々木似知子(宮城大)	9:45		404 大きさの異なるロールペールに対応するペールグラブの開発(第2報). ○武内徹郎、福井弘之、馬木康隆(徳島県立農林水産総技セ)、橋 保宏、川出哲生(生研セ)、加藤雅徳(三陽機器)、浦川修司(畜草研)
10:00	的場 和弘	305 コーンサイレージ補給量が秋季の放牧泌乳牛の食草量および乳生産に及ぼす影響. ○上田宏一郎、三谷朋弘(北海道大院農)、高橋誠、近藤誠司(北大FSC)	10:00	野中 和久	405 可変径式TMR成形密封装置の開発. ○川出哲生、橋 保宏、志藤博克(生研セ)
10:15		306 放牧主体飼養下における泌乳牛のミネラルの摂取量、吸収量および乳中排出量の関係. ○角谷芳樹、三谷朋弘、上田宏一郎(北大院農)、高橋 誠、近藤誠司(北海道大FSC)	10:15		406 イアコーンの水分含量がサイレージの発酵品質および好気的変敗に及ぼす影響. ○大下友子、根本英子、青木康浩、青木真理、上田靖子(北農研)、西浦明子(畜草研)、滑川拓朗(家畜改良セ)、高田雅透(IHスター)
10:30		307 北海道における乳牛による農作業事故の調査. ○志藤博克、積 栄、岡田俊輔(生研セ)、白垣龍徳(農林水産政策研)、大浦栄次(富山県農村医学研)、浅沼信治(日本農村医学研)	10:30		407 イアコーンの機械収穫条件が飼料成分組成に及ぼす影響. ○根本英子、大下友子、青木康浩、上田靖子(北農研)、西浦明子(畜草研)、滑川拓朗(家畜改良セ)
10:45	石田 元彦	308 酪農場の乳牛飼養密度の違いと、窒素利用効率の関係. ○佐々木章晴(北海道)	10:45	青木 康浩	408 大型サイロで調製されたトウモロコシサイレージの品質調査-エステル臭の有無と発酵生成物および微生物フローラー. 韓 紅燕、○西野直樹(岡山大)、出口健三郎(道総研畜試)
11:00		309 放牧および舎飼飼養下の酪農家バルク乳における自発性酸化臭関連物質の変動と乳成分との関係. ○三谷朋弘、堀井美緒、角谷芳樹、上田宏一郎、木村俊範、近藤誠司(北海道大院)	11:00		409 濃厚飼料の代替率を50%とした飼料用玄米の給与が肥育後期黒毛和種去勢牛の肥育成績におよぼす影響. ○高平寧子、中村真貴(富山県農林水産総技セ)、金谷千津子(富山県農業技術課広域普及指導セ)、松原久美子、松原禎敏、廣瀬富雄(富山県農林水産総技セ)
11:15		310 飼料構成の異なる酪農家における牛乳の成分と風味. ○八代田真人、塚本麻奈、山田雄也、大谷 滋(岐阜大)	11:15		410 乳牛における品種の異なる飼料用玄米および籾米の栄養価. ○浅井英樹、河合恒祐、林 登、吉村義久、坂口慎一(岐阜県畜研)、野中和久(畜草研)

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。時間厳守をお願いします。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 8月28日		
E会場 (C4号館 C4-101教室)		
時間	座長	優秀若手発表賞発表
9:00	八代田 真人	Y01 牧草地における放射性物質の分布と動態 1. 牧草地における空間放射線量率分布の経年変化. ○江口沙綾、築城幹典、永田悠介、前田武己(岩手大農)
9:15		Y02 施肥管理の違いがBrachiaria brizantha cv. MG-5の乾物生産量に及ぼす影響. ○金子 真、中村好徳、山田明央(九沖農研)
9:30	堤 道生	Y03 ライジングプレートメーターを利用した放牧カレンダー作成モデルの開発. ○中村道長、穴澤清一、大石 進、金田修一、戸澤芳郎(家畜改良セ)
9:45		Y04 大規模草地における精密放牧システムの構築((16)傾斜放牧地における牛の排糞場所予測方法の比較. ○吉利怜奈(広島大院)、渡辺也恭(北農研)、川村健介、林志炫(広島大院)、坂上清一(北農研)、安田泰輔(山梨環境科研)
10:00		Y05 放牧地の植物種多様性の違いがウシのミネラル利用性に与える影響. ○水野速人、佐藤衆介、吉原 佑(東北大院)、井上達志、木村和彦(宮城大)、田中繁史、小倉振一郎(東北大院)
10:15	菅野 勉	Y06 飼料用大麦ワセドリ2条の水田二毛作体系における有望性. ○川村淳也、山本泰也、石崎雄介(三重畜研)、出岡裕也、中山幸則、川原田直也(三重農研)
10:30		Y07 静電容量式水分測定器を用いた粗飼料の含水率簡易測定. ○川出哲生、小島智美、橘 保宏(生研セ)
10:45		Y08 チモシーにおける異なる熟期の栄養系間交配の変異. ○足利和紀、田中常喜、藤井弘毅(道総研北見農試)、玉置宏之(畜草研)、佐藤公一(道総研上川農試)
口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。 時間厳守をお願いします。 またプロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。		

口頭発表プログラム 8月29日

A会場 (C1号館 C1-101教室)			B会場 (C1号館 C1-201教室)		
時間	座長	1. 草地生態・システム分析・緑地環境	時間	座長	2. 造成・管理・栽培
9:00	板野 志郎	101 牧草地における放射性セシウムの分布. ○塩見正衛(放送大)、福田裕穂、寺島一郎(東京大院)	9:00	川地 太兵	211 大豆ホールクロップサイレージ原料のフトエストロゲン含量と飼料成分における品種間差異. ○嶺野英子、魚住 順、河本英憲、内野 宙、出口 新(東北農研)
9:15		102 エゾシカに強度に採食された洞爺湖中島大平原の植生の不均一性. 陳 俊(西北農林科技大)、八木隆徳、小路 敦、渡辺也恭(北農研)、西脇亜也(宮崎大)、○塩見正衛(放送大)	9:15		212 狭畦および対列(twin-rows)栽培がトウモロコシの収量および耐倒伏性に及ぼす影響. ○原田直人(鹿児島県農開総セ)
9:30		103 草本種の出現率動態に関する状態空間モデル. ○安田泰輔、中野隆志(山梨県環境科学研)、塩見正衛(茨城大)	9:30		213 鹿児島県におけるトウモロコシ二期作を基幹とする2年5作栽培体系の検討. ○原田直人(鹿児島県農開総セ)、加藤直樹(九州農研)、西村和志(中央農研)
9:45		104 エンドファイトが感染したイタリアンライグラス休眠種子は、エンマコオロギの選好性は低いか? ○内田 智、早川雅章、山下雅幸、澤田 均(静岡大)、市原 実(静岡農林技研)	9:45	義平 大樹	214 種子高速線出機構を搭載したトウモロコシ用不耕起播種機の開発. ○橋 保宏、川出哲生(生研セ)
10:00	105 ラジコン飛行機空撮画像を利用した放牧地における植物群落高の空間的な分布の観測. ○川村健介、Lim Jihyun、吉利怜奈、黒川勇三(広島大院)、弓場憲生(広島県立総技研)、渡辺也恭、坂上清一(北農研)	10:00	215 トウモロコシのかび毒産生に及ぼす品種と播種期の影響. ○魚住 順、嶺野英子、出口 新、内野 宙(東北農研)		
10:15	築城 幹典	106 Estimation of herbage biomass and leaf area index using a hand-held crop growth measuring device with multiple linear regression analysis. ○Lim Jihyun、川村健介、吉利怜奈、Lee Hyo-Jin、黒川勇三(広島大院)、渡辺也恭(北農研)	10:15	7. 土壌・肥料	
10:30		107 フローサイトメリーによる東北地方自生クサヨシ(Phalaris arundinacea)のゲノムサイズ推定. ○木村健智(長岡技術科学大)、秋山征夫、久保田明人、藤森雅博(東北農研)、上山泰史(近中四農研)	10:30	井戸 田 幸子	701 草地への複数の肥料要素を変化させた場合の余剰肥料要素、肥料要素利用効率の関係. ○佐々木章晴(北海道当別高)
10:45	108 イタリアンライグラス自生集団のHydrothermal time発芽モデル. ○足立行徳(岐阜大院)、山下雅幸、澤田 均(静岡大)、浅井元朗(中央農研)	10:45	702 寒冷地におけるマメ科緑肥作物ヘアリーベッチの導入がトウモロコシの初期生育に与える影響. ○出口 新、魚住 順、内野 宙、嶺野英子(東北農研)		703 スラリーと肥料または堆肥と肥料を施用する牧草生産における温室効果ガス発生量比較. ○森 昭憲(畜草研)、寛示戸雅之(北里大)

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。**時間厳守でお願いします。**また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 8月29日

C会場 (C1号館 C1-301教室)			D会場 (C4号館 C4-201教室)		
時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用
9:00	山田 明央	311 クマイザサ草地併用で親子放牧した際の黒毛和種子牛の日増体量. ○小路 敦(北農研)	9:00	堀口 健一	411 玄米の加工形状の違いが離乳後乳用子牛の飼料摂取量、発育および消化性に及ぼす影響. ○高橋正樹(富山県農林水産総研)、笠井史子、川嶋賢二(千葉県畜総研)、野田正人(愛知県農総研)、荒邦昌宏、永島茂男(石川県農林総研)、秋山清(神奈川県農技セ)、横川広明、脇本 亘(茨城県畜セ)、櫛引史郎(畜草研)
9:15		312 耕作放棄地で放牧牛が摂取する野草の飼料価値の推定. ○堤 道生、高橋佳孝(近中四農研)、恵本茂樹、伊藤直弥(山口県農林総研)、大谷一郎、松本和典(近中四農研)	9:15		412 玄米の加工形状の違いが離乳後乳用子牛の第一胃内容液性状および血液性状に及ぼす影響. ○笠井史子、川嶋賢二(千葉県畜総研)、高橋正樹(富山県農林水産総研)、野田正人(愛知県農総研)、荒邦昌宏、永島茂男(石川県農林総研)、秋山清(神奈川県農技セ)、横川広明、脇本 亘(茨城県畜セ)、櫛引史郎(畜草研)
9:30		313 耕作放棄地への放牧を導入した肉用牛繁殖システムのLCA: 舎飼システムとの比較. ○堤 道生(近中四農研)、引田久美子(山口県農林総研)、高橋佳孝、山本直幸(近中四農研)	9:30		413 飼料用玄米の混合割合の異なるイネWCS主体発酵TMRの給与が泌乳中後期の乳生産に及ぼす影響. ○山本泰也、石崎雄介、川村淳也(三重県畜研)
9:45		314 イタリアンライグラスと再生稲を組み合わせた周年放牧肥育技術. ○福井弘之、岩佐隆範、田淵雅彦(徳島県立農水総研)、大石克己(徳島県畜産課)、小倉朋和(徳島県西部家保)	9:45		414 飼料用米の混合割合の異なる稲WCS主体発酵TMRの給与が乳生産に及ぼす影響. ○関 誠、小橋有里、宮腰雄一(新潟県農総研)
10:00	進藤 和政	315 モンゴル国の放牧ヒツジの秋から翌春における体重の変化. ○上原有恒(国際農研)、Erdenechimeg Ayush、Onontuul Ganbaatar(モンゴル国立農業大)、山崎正史(国際農研)	10:00	山本 泰也	415 飼料用玄米の加工形態の違うTMRの給与が泌乳中期の乳生産に及ぼす影響. ○室井章一(栃木県畜酪研)、藤田大輔(栃木県塩谷南那須農業振興事務所)、館野綾音(栃木県畜酪研)
10:15		316 モンゴル国森林ステップおよびステップ地域の牧民世帯における寒冷季補助飼料の準備と利用. ○神谷康雄、山崎正史(国際農研)	10:15		416 米ぬかの加工形態や給与割合の違うTMRの給与が泌乳中期の乳生産に及ぼす影響. ○室井章一(栃木県畜酪研)、藤田大輔(栃木県塩谷南那須農業振興事務所)、館野綾音(栃木県畜酪研)
10:30	田村 健一	5. 生理・形態・病理・昆虫	10:30		417 稲WCS主体発酵TMRは暑熱期に生乳中のヘキサナール濃度を抑制できる. ○小橋有里、関 誠(新潟県農総研)、加藤浩晶(明治技術開発研)
10:45		501 ソルガムの紫斑点病耐性遺伝子(ds1)多型の地理的分布. ○川東広幸(生資研)、春日重光(信州大)、安藤露、金森裕之、呉 健忠、米丸淳一(生資研)、佐塚隆志(名古屋大)、奥泉久人、松本隆(生資研)	10:45		418 発酵に伴うTMR中微生物の変化と飼料の違いが乳牛の腸内微生物叢へ与える影響. ○小橋有里、関 誠(新潟県農総研)
		502 マメ科牧草ガラガの発芽に及ぼす硬実打破処理と種子保存温度の影響. ○山本紳朗、大塚菜々(帯畜大)			

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。時間厳守でお願いします。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 8月29日		
E会場 (C4号館 C4-101教室)		
時間	座長	6. 育種
9:00	黄川田 智洋	606 トウモロコシ親系統「Mi29」に南方さび病抵抗性を導入した同質系統のF1組合せの早晩性, 収量性. ○村木正則(九州農研)
9:15		607 早生ライグラス系統の耐雪性. ○久保田明人、秋山征夫、藤森雅博(東北農研)、田村健一(北農研)
9:30		608 フェストロリウム育成系統の越冬性. ○田瀬和浩(北農研)、谷津英樹、横山 寛、高山光男(雪印種苗)、田村健一、眞田康治(北農研)
9:45		609 表現型循環選抜によるシロクローバの耐寒性の改良(3). ○高田寛之、奥村健治、廣井清貞(北農研)
10:00	藤森 雅博	610 オーチャードグラス混播条件下におけるチモシー個体の生育変異. ○藤井弘毅、足利和紀、田中常喜(道総研北見農試)
10:15		611 日本とブルガリアのアカクローバ品種の特性比較. ○奥村健治(北農研)、T. Mihovsk(ブルガリア山地家畜育種・農業研)、高田寛之、廣井清貞(北農研)
10:30		612 北海道におけるオギ遺伝資源の探索・収集. ○眞田康治、小路 敦、田村健一、田瀬和浩、奥村健治(北農研)
10:45		613 北海道で収集したオギの植栽次年度における初期生育. ○小路 敦、眞田康治、田村健一、奥村健治(北農研)
口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。 時間厳守をお願いします。 またプロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。		

<p style="text-align: center;">ポスター発表（中央館 学生ロビー）</p> <p style="text-align: center;">8月28日 12:10～14:00、8月29日 11:00～13:00</p> <p style="text-align: center;">偶数番号コアタイム：8月28日 13:00～14:00、奇数番号コアタイム：8月29日 12:00～13:00</p>	
1. 草地生態・システム分析・緑地環境	
P1	半自然草地における放牧生産管理モデルの開発。 ○板野志郎、中尾誠司(畜草研)
P2	シバ放牧草地における植生への傾斜度と傾斜方位の影響。 ○東山雅一(東北農研)、高橋繁男(栃木県那須塩原市)、出口 新(東北農研)
P3	牧草地における放射性物質の分布と動態 2. 牧草地における空間放射線量率の空間分布パターン。 ○江口沙綾、築城幹典、永田悠介、前田武己(岩手大)
P4	牧草地における放射性物質の分布と動態 3. 放牧草地における植生中放射性セシウム濃度の空間分布。 ○築城幹典、江口沙綾、永田悠介、前田武己(岩手大)
P5	牧草地における放射性物質の分布と動態 4. 放牧草地における牧草中放射性セシウム濃度と移行係数。 ○築城幹典、江口沙綾、永田悠介、前田武己(岩手大)
P6	Restricted gene flow between <i>Miscanthus sinensis</i> and <i>Miscanthus sacchariflorus</i> in Japan. ○Marhamah Nadir、西脇亜也、田中有理佐(宮崎大)、山田敏彦(北海道大)、桑原正太郎、松浦宏哉、明石 良、Ryan Stewart (Brigham Young Univ.)
P7	放棄地のクズ埋土種子の動態に及ぼす伐採、火入れ、羊放牧の影響。 ○福田栄紀(東北農研)
P8	草地に隣接するメダケ林分における稈の発生と林分構造。 ○田中亜輝子(東海大院)、伊藤秀一、椛田聖孝、岡本智伸(東海大)
P9	放牧利用されている野草地における有刺鉄線へのモズのはやにえ。 ○岡本智伸、田中亜輝子(東海大院)、伊藤秀一、プラダンラジブ、椛田聖孝(東海大)
2. 造成・管理・栽培	
P10	関東南部におけるトウモロコシ二期作の堆肥を一括施用した場合の2作目に施用する化学肥料。 ○折原健太郎(神奈川農技セ)
P11	排糞種子を利用した堆肥シードペレットによるシバ草地造成法。 ○下田勝久(国際農研)、井出保行(畜草研)
P12	イタリアンライグラスオーバーシーディング利用後のバヒアグラス生産量。 ○山田明央、金子 真、中村好徳(九沖農研)
P13	イタリアンライグラス収穫跡でのトウモロコシ省力播種技術。 ○住田憲俊、伊吹俊彦、井上秀彦、森田聡一郎(畜草研)
P14	北海道におけるスイッチグラスのバイオマス作物としての生育特性 1. 播種期と播種方法。 ○真田康治、田村健一、田瀬和浩(北農研)
P15	3種の耕起方法で栽培された飼料用トウモロコシの放射性セシウム濃度。 ○菅野 勉、原田久富美、伊吹俊彦、天羽弘一、阿部佳之、住田憲俊、井上秀彦、小島陽一郎、森田聡一郎、佐藤節郎(畜草研)
P16	冬作跡地の飼料用トウモロコシ畝立て播種に適した耕起方法。 ○菅野 勉、森田聡一郎、佐藤節郎(畜草研)
P17	排気ガスを利用した既存ブロードキャスターによるライムケーキ(廉価な炭カル)の散布。 ○梅村和弘、田中大樹、福島律衣(北農研)
P18	夏播きえん麦における放射性セシウムの土壌から植物体への移行。 ○佐々木 亨(日本草地畜産種子協会)
P19	イタリアンライグラス育成品種・系統の病害抵抗性および収量性。 ○佐々木 亨、平田球子(日本草地畜産種子協会)、月星隆雄(畜草研)
P20	二毛作体系におけるライ麦収穫期が不耕起栽培飼料用トウモロコシ収量に及ぼす影響。 尾張利行(岩手県農林水産部)、○伊藤孝浩(岩手県農研セ)、堀間久己(岩手県一関農林振興セ)、山形広輔(岩手県農研セ)、多田和幸(岩手県奥州農業改良普及セ)、魚住 順(東北農研)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。	

<p style="text-align: center;">ポスター発表（中央館 学生ロビー）</p> <p style="text-align: center;">8月28日 12:10～14:00、8月29日 11:00～13:00</p> <p style="text-align: center;">偶数番号コアタイム：8月28日 13:00～14:00、奇数番号コアタイム：8月29日 12:00～13:00</p>	
P21	放牧と他作物との輪作体系確立に関する研究 6. 大豆のリビングマルチ栽培に用いるライムギの検討。 ○手島茂樹、池田哲也、喜田環樹(畜草研)
P22	汚染初年目の草地における放射性セシウムのモニタリング。 ○山本嘉人、渋谷 岳、平野 清、進藤和政(畜草研)、増山秀人(栃木県農業者大学校)、藤澤 保、中村道長、戸澤義郎(家畜改良セ)、宮路広武、中尾誠司、梶村恭子(畜草研)
P23	草地における牧草中放射性セシウム低減化技術の開発 1. 草地更新による牧草中放射性セシウム低減効果。 渋谷 岳、山本嘉人、○進藤和政、平野 清(畜草研)
P24	草地における牧草中放射性セシウム低減化技術の開発 2. 刈り取り時期およびリター除去が牧草中放射性セシウム濃度に及ぼす影響。 ○山本嘉人、渋谷 岳、平野 清、進藤和政(畜草研)
P25	北海道中央部における飼料用トウモロコシに対する千鳥播栽培が収量に及ぼす影響—中生産種(相対熟度100日)における千鳥播効果と栽植密度の関係—。 ○義平大樹(酪農学園大)、石川弘大(十勝農業改良普及セ)、小阪進一(酪農学園大)、佐藤智広(パイオニアハイブリッドジャパン)
P26	北海道中央部における飼料用トウモロコシに対する千鳥播栽培が収量に及ぼす影響—早生産種(RM85~95)における千鳥播効果と栽植密度の関係—。 ○義平大樹(酪農学園大)、石川弘大(十勝農業改良普及セ)、小阪進一(酪農学園大)、佐藤智広(パイオニアハイブリッドジャパン)
P27	炭酸カルシウムで矯正した国頭マージ土壌で栽培された飼料用麦類の生産性の比較。 ○當山秀美、宮城 尚(琉球大)、屋良朝宣、今井裕理子(鹿児島大院)、川本康博(琉球大)
P28	Sorghum属草地の群落構造におけるHCNpの垂直分布。 ○今井裕理子、YinYin Kyawt、Thaikua Sarayut(鹿児島大院)、江越喜彦、Win Mi Htwe、當山秀美、加藤 翔、川本康博(琉球大)
3. 放牧・家畜管理・行動	
P29	知床エゾシカファーム放牧地におけるエゾシカの 乾物および粗蛋白質摂取量の推定。 ○相馬幸作、志水宏明、関沢卓也(東京農大)、土田好起、富田勝将(知床エゾシカファーム)、花田正明(帯畜大)、増子孝義(東京農大)
P30	放牧初期のウシのルーメン内発酵および細菌叢の変化—序報—。 ○中野美和、芳賀 聡、遠野雅徳、石崎 宏、的場和弘(畜草研)
P31	放牧牛乳に特徴的な揮発性成分phyt-1-eneの簡易分析法の検討。 ○秋山典昭、上田靖子、朝隈貞樹(北農研)
P32	搾乳牛の冬季放牧における草地からの栄養摂取。 ○的場和弘、山本嘉人、中野美和、平野 清、進藤和政、梶村恭子(畜草研)
4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	
P33	近赤外分光分析によるソルガムサイレージ発酵品質の迅速評価法の検討。 ○江口研太郎(畜草研)、服部育男(九沖農研)、野中和久(畜草研)
P34	近赤外分光分析によるソルガム穀実の飼料成分および抗酸化活性の推定。 ○江口研太郎(畜草研)、高井智之、我有 満(九沖農研)
P35	ラップフィルムの色や材質がイネWSC貯蔵中のペール内温度や品質に及ぼす影響。 ○野中和久、松尾守展(畜草研)
P36	トウモロコシ代替として飼料用玄米を混合した発酵TMRを給与した乳牛の乳生産、消化率および窒素出納。 ○宮地 慎、松山裕城、細田謙次、野中和久(畜草研)
P37	チモシーの刈取り適期を中心とした生育時期別WSC含量の変動。 ○増子孝義、高橋大輔、相馬幸作(東京農大)、塩 規江、志鎌広勝、大畑任史(根室農業改良普及セ)
P38	アンスロン法による可溶性炭水化物(WSC)測定の推奨条件。 ○篠田英史(雪印種苗)、出口健三郎、飯田憲司(道総研畜試)、増子孝義(東京農大)
P39	稲わら収穫後の放置期間、被雨等が飼料成分、回収率および第一胃内での消化率に及ぼす影響。 ○金 錫九(岩手大院)、入野田恭子、吉田宣夫、堀口健一、高橋敏能(山形大)
P40	アキタスギのおがくずを主とするキノコ廃菌床の飼料利用。 ○小池晶琴、横尾正樹、伊藤寛治(秋田県立大)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。	

<p style="text-align: center;">ポスター発表（中央館 学生ロビー）</p> <p style="text-align: center;">8月28日 12:10～14:00、8月29日 11:00～13:00</p> <p style="text-align: center;">偶数番号コアタイム：8月28日 13:00～14:00、奇数番号コアタイム：8月29日 12:00～13:00</p>	
P41	カンショ焼酎粕ケーキ添加発酵TMRの発酵特性とタンパク質画分。 ○西村慶子、中原高士（宮崎畜試）、大久津昌治（鹿児島大院）、川本康博（琉球大）、中西良孝（鹿児島大院）
P42	近赤外分析法による飼料用大麦の飼料成分分析。 ○甘利雅弘（畜草研）、横澤将美、平林晴飛（群馬畜試）、柳澤貴司、加藤 浩（作物研）
P43	マラウイ・ブンブエ地域の小規模農家において利用されている乳牛用飼料の化学成分含量および栄養価。 ○河合正人、村中拓也、宗像卓朗、手塚雅文、谷 昌幸、岸本 正、耕野拓一、大山美砂子、小嶋 浩（帯畜大）
P44	アクレモ酵素と乳酸菌混合剤添加がヨシサイレージの発酵品質と化学成分組成に及ぼす影響。 ○石田元彦、小池りりい、高橋宏平、牧洋史郎、浅野桂吾、真館辰弥、小柳 喬（石川県立大）
P45	新規Lactobacillus plantarum subsp. plantarum TO1002株添加による飼料ムギホールクロップサイレージの発酵品質改善効果。 ○上垣隆一、小林寿美、遠野雅徳（畜草研）
P46	貯蔵条件の違いがバイオマス資源作物の構造的炭水化物の回収率に及ぼす影響。 ○服部育男、我有 満、加藤直樹、上床修弘（九沖農研）
P47	飼料用米の水分調整量および前処理がサイレージ発酵品質におよぼす影響。 ○井上秀彦、遠野雅徳、小林寿美、松尾守展、小島陽一郎、伊吹俊彦、上垣隆一（畜草研）
P48	浮イネ Rayada の飼料化における刈取適期。 山長聖和、○中野 豊、泉 清隆、堀江ちひろ、梶原良徳、梶原さゆり、山崎敦子、四宮直子（九州大院）、飛佐 学（宮崎大）、望月俊宏、下條雅敬（九州大院）
P49	枝豆茹莢残渣サイレージ調製に用いる添加物の検討。 ○堀口健一、三上慶裕（山形大）、佐伯真魚（日本大）、高橋敏能、吉田宣夫（山形大）
5. 生理・形態・病理・昆虫	
P50	チモシーの越冬前・越冬時フルクタン代謝に関わる酵素遺伝子。 ○田村健一、眞田康治、田瀬和浩、吉田みどり（北農研）
P51	飼料用トウモロコシにおける赤かび病の発病度とデオキシニパレノール濃度の関係。 ○飯田憲司、湊 啓子、山川政明（道総研畜試）
P52	2011～2012年に新たに発生した飼料作物・牧草類の病害。 ○月星隆雄（畜草研）、桂 真昭（九沖農研）、山川政明（道総研畜試）、岡部郁子、増中 章（畜草研）
P53	絹糸束注入法における接種胞子量および接種時期がFusarium graminearum s.str.による飼料用トウモロコシ赤かび病の発病度に及ぼす影響。 ○湊 啓子、飯田憲司、山川政明（道総研畜試）
P54	植物生育促進菌類Trichoderma koningiiに対するミヤコグサ共生変異体のファイトアレキシン生合成遺伝子の発現応答。 ○増中 章（畜草研）、百町満朗（岐阜大）、竹中重仁（農研機構本部）、月星隆雄（畜草研）
P55	有傷接種法による接種胞子量および接種時期がFusarium graminearum s.str.による飼料用トウモロコシ赤かび病の発病度に及ぼす影響。 湊 啓子、飯田憲司、○山川政明（道総研畜試）
6. 育種	
P56	Pennisetum、Genchrus属植物におけるアポスポリー特異的染色体とその系統解析。 ○秋山征夫（東北農研）、Shailendra Goe（デリー大）、Joann A. Conner、Wayne W. Hanna（ジョージア大）、山田-秋山仁美（岩手大）、Peggy Ozias-Akins（ジョージア大）
P57	飼料用トウモロコシへの根腐病圃場接種検定法の検討。 ○黄川田智洋、菅原幸哉、月星隆雄、三ツ橋昇平、玉置宏之、佐藤 尚（畜草研）
P58	寒地向き飼料用トウモロコシ中生品種系統における黄熟中期後の雌穂乾物率の上昇。 ○伊東栄作、濃沼圭一（北農研）
P59	アルファルファ新系統「北海5、6号」の播種2年目の特性。 ○廣井清貞、奥村健治（北農研）
P60	四倍体雄性不稔ペレニアルライグラスの育成 2. 四倍体雄性不稔個体の後代検定。 ○藤森雅博（東北農研）、藤岡洋子（山梨酪試）、清 多佳子（畜草研）、保倉勝己（山梨酪試）、荒川 明（畜草研）
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。	

<p style="text-align: center;">ポスター発表（中央館 学生ロビー）</p> <p style="text-align: center;">8月28日 12:10～14:00、8月29日 11:00～13:00</p> <p style="text-align: center;">偶数番号コアタイム：8月28日 13:00～14:00、奇数番号コアタイム：8月29日 12:00～13:00</p>	
P61	花粉・種子稔性のある三倍体ミスカンサス。 ○藤森雅博、秋山征夫、久保田明人(東北農研)、上床修弘、我有 満、山下 浩(九沖農研)
P62	いもち病抵抗性イタリアンライグラス「JFIR-15」の育成。 ○平田球子(日本草地畜産種子協会)、高橋 亘(畜草研)、佐々木 亨(日本草地畜産種子協会)
P63	イタリアンライグラスにおける低硝酸選抜が乾物収量と草丈に及ぼす影響。 ○川地太兵、荒川 明、原田久富美、須永義人(畜草研)
7. 土壌・肥料	
P64	イタリアンライグラスにおける低カリウム蓄積性品種の利用によるセシウム濃度低減の可能性。 ○川地太兵、須永義人、原田久富美(畜草研)
P65	暖地型イネ科飼料作物の成長および土壌化学性における有機態および無機態窒素の差異。 ○井戸田幸子、石井康之(宮崎大)
P66	原発事故当年における土壌から稲発酵粗飼料、飼料用米への放射性セシウム移行について。 ○原田久富美、伊吹俊彦(畜草研)、増山秀人(栃木畜酪研)、箭田佐衣子、石川 哲也(中央農研)、藤田智博、江上宗信、藤村 恵人(福島農総セ)
P67	ペレニアルライグラス単播兼用草地における窒素施肥量の影響。 ○岡元英樹、古館明洋、新宮裕子、大橋優二(道総研天北支場)
P68	ペレニアルライグラス単播兼用草地における窒素施肥配分の影響。 ○岡元英樹、古館明洋、新宮裕子、大橋優二(道総研天北支場)
P69	カリ過剰により発生するトウモロコシのカルシウム欠乏症状1ー養分管理の影響ー。 ○須永義人、川地太兵、原田久富美(畜草研)
P70	カリ過剰により発生するトウモロコシのカルシウム欠乏症状2ートウモロコシにおけるカルシウム要求性の影響ー。 ○須永義人、川地太兵、原田久富美(畜草研)
P71	活性酸素を活用した家畜排泄物由来の悪臭脱臭法の開発。 溝渕裕一(広島大院)、田河雅威(横田工業商会)、大原 俊彦(広島総研保健環境セ)、 ○正岡淑邦、小野広樹(広島大院)、佐藤正夫(横田工業商会)
8. その他	
P72	ニホンジカの個体数増加は小型ピロプラズマ病媒介ダニの増加をもたらすか？ ○塚田英晴(畜草研)、中村義男、神尾次彦(動衛研)、猪熊 壽(帯畜大)、花房泰子(動衛研)、松田奈帆子(栃木県民の森管理事務所)、丸山哲也(栃木県自然環境課)、大場孝裕(静岡農林技研)、永田幸志(神奈川自然環境保全セ)
P73	エリアンサス周年収穫によるバイオマス原料の供給ポテンシャル。 ○上床修弘、高群憲一郎、我有 満(九沖農研)
P74	ニホンジカの高密度化に伴う富士山西麓朝霧地域の牧草被害。 ○大竹正剛、大橋正孝(静岡農林技研)、稲垣敦之(静岡県富士農林事務所)、片山信也(静岡畜技研)、山田晋也、大場孝裕(静岡農林技研)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。	